

令和3年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園長 宮下友美恵
 学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

- 1 幼児期の発達段階に即した教育環境を整え、子どもたちの自発的な活動をもとにして、生き生きとした意欲的な子どもを育てる。
- 2 楽しく豊かな生活経験を通して、個性に応じたそれぞれの能力の芽生えを伸ばし、健康的で明るい子どもを育てる。
- 3 様々な表現活動を通して、豊かな心と創造性の芽生えを育てる。

2 本年度の重点目標

- ・健康・安全を守りながら、子どもの豊かな経験や学びを保障する
- ・小学校との円滑な接続
- ・特別支援教育の充実を図る

3 評価項目に対する自己評価及び学校関係者評価結果

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	評価	取組状況	取組による成果	評価	意見
新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しつつ、子どもの経験や学びを保障する	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に対する最新の情報を収集し、園医や保健所と相談しながら、その対応について常に園全体で共通理解するようにした。 ・感染予防のための保育室の環境（机や椅子、遊具の配置等）を考え、換気や共同の場の消毒をしっかりと行った。 ・手洗いうがい、手指の消毒、検温の指導を継続して行った。 ・園児に陽性者が出た場合に、濃厚接触者を的確に把握するため、座席等の記録を毎日行った。 ・新型コロナウイルスへの対応についての研修会に園長、教員が参加し、感染対策や保護者への支援に生かした。 ・園児の体調に配慮しながら、戸外での活動が充実するような環境の工夫を行った。 ・感染症対策を踏まえて、様々な行事の実施時期、実施方法、参加人数を検討し、保護者の理解、協力を得ながら実施した。 実施できなかった「ありがとうの会」については、祖父母へのカード作りに取り組んだり、劇遊びに代わってその他の遊びの充実を図り、その活動の様子や育ちを伝えるクラスのニュースを定期的に保護者に発信した。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員も感染予防対策や自己管理を徹底した。コロナワクチンの接種を積極的に受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その時々状況を正確に把握しながら、園全体で協力して感染対策を実施し、園内に陽性者が確認された場合も、クラスターに繋がることはなかった。 ・子どもが自発的に手洗い、うがいをするようになり、風邪やインフルエンザ、その時々状況を正確に把握しながら、園全体で協力して感染対策を実施し、園内に陽性者が確認された場合も、クラスターに繋がることはなかった。 ・子どもが自発的に手洗い、うがいをするようになり、風邪やインフルエンザ、その他の感染症も大幅に減少した。 ・研修会に参加することで、陽性者が出た場合の園児や保護者へのケアについて知ることができ、実践に生かした。 ・行事の実施時期や実施方法の変更、参加者の人数制限等を行うことで、子どもの成長のために必要な経験をおおむね保障することができた。ただし、集団で歌を歌う経験が減ったり、劇遊びをすることはできなかったことは残念であった。 ・子どもの活動や育ちを伝えるクラスのニュースは大変好評で保護者の理解に繋がった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・状況が次々と変わっていくなか、園で判断していかなければならないことが多く、苦勞されたことと思う。 ・園医や保健所との連携もしっかりとれていた。 ・園が保護者のサポートをしようとして努力している様子がよくわかった。感染して不安になっている保護者が相談できる医療機関を園から紹介してもらいうれしかったとの声を聞いた。 ・コロナ禍であっても、行事をすぐに中止にするのではなく、様々な工夫をしながらできる限り行事を実施してもらえてよかった。3学期に実施予定のありがとうの会は実施できなかったが、その代わりに、子どもたちの主体的な遊びがとても広がったと感じている。 ・新型コロナウイルス感染症に関する考え方や感じ方は、保護者のなかでも個人差が大変大きく、それだけに園の判断は難しかったと思うが、全体のバランスを考えながら、最善の方法を選ぼうとしていたことは、とても評価できる。
小学校との円滑な接続	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と本園との円滑な接続をするための取組について検討し合い、小学校の授業を本園の教員が参観したり、小学校の教員が本園の保育を参観したりする機会を複数回設けた。また、参観するだけでなく、参観後に教師間で協議を行った。 ・本園の教員が小学校の校内研修に参加した。 ・園長が学区の小中一貫教育準備委員会のメンバーとして加わり、小中一貫教育についての理解を深めた。 ・幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・参観や参観後の協議会によって、幼稚園と小学校の教員同士が互いの教育について知る機会が増え、理解が進んだ。 ・コロナ禍ということもあり、園児と児童との交流は進まなかったが、今後はそのような機会を意識して持ちたい。 ・架け橋特別委員会の議論について研修することで、円滑な接続をするためには、幼児期の教育を充実させ 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の先生に幼稚園の教育について知りたいと思ってもらうことは、なかなか難しいが、豊田幼稚園の先生方の情熱で、少しずつでも理解してもらえるとよいと思う。 ・豊田幼稚園の子どもたちの姿を見ていると、遊びの中で本当にいろいろなことを学んでいると感じる。幼稚園というところは、文字を教えるところでは

		の議論の内容について園内研修し、共通理解するとともに、幼児期の遊びを通じた学びを豊かにするための教育実践について検討した。	ることが重要であることが共通理解できた。		なく、子どもが文字と出会う場である。子どもが遊びの中で文字を使ってみたいと思うような教育は素晴らしい。
特別支援教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や療育施設、保育カウンセラー等と連携をしながら一人一人に応じた指導の在り方を検討し、全教職員で協力して、環境づくりや支援に取り組んだ。 ・担任と預かり保育担当の教師とで連絡を密にとり、支援の方針や配慮点などを共有した。 ・特別な支援を必要とする園児の保護者と教員とで定期的に面談を実施し、必要に応じて面談に保育カウンセラーにも加わっていただきながら、支援の方向性や方策について検討し、共有し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で行事の日程が変わり、特別な支援の必要な子にとってはそれに対応する難しさがあったが、保育カウンセラーに助言をいただきながら、全教職員で支援に取り組んだことで、成果を得ることができた。 ・療育施設との連携については十分にはできず課題が残った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもに、先生たちが真剣に向き合い、先生同士で話し合い協力し合って取り組んでいることが、保育を見ていてとても感じられた。 ・先生が感情的にならずに子どもと関わっていることが、よい影響を与えている。 ・療育施設は様々な考え方や方針があるので、その特徴をよく知って、連携しやすい施設を探すことも必要。

評価（A…十分に成果があった B…少し成果があった C…成果がなかった）

4 来年度取り組むべき課題

- ・豊かな体験を通して、幼児の資質・能力を育む
- ・子どもの学びをつなぐ架け橋期のカリキュラムの検討

5 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。